

独立行政法人日本学術振興会第28回評議員会議事要録

日 時 : 平成30年10月2日(火)15:00~17:00

場 所 : 独立行政法人日本学術振興会 3階 会議室

出席評議員:石川 冬木、大野 英男、佐藤 岩夫、原山 優子、日比谷 潤子、平野 眞一、村田 治、
室伏 きみ子、森 重文(敬称略)

本会役員等:里見理事長、家理事、牛尾理事、小長谷監事、西島監事

学術システム研究センター:佐藤所長、盛山副所長、村松相談役

世界トップレベル拠点形成推進センター:宇川センター長 他

議事に入る前に、「独立行政法人日本学術振興会評議員会運営規則」に基づき、互選により、平野評議員が議長に選出された。

1. 前回議事要録(資料1)

総務部長より、前回評議員会後、評議員による確認を経て、日本学術振興会(以下「学振」と略。)のホームページで公開している旨説明があった。

2. 日本学術振興会の業務実施状況(資料2-1, 2-2)

総務部長より「第4期中期目標・中期計画・平成30年度計画」、「平成31年度概算要求の概要」について説明があった。

(評議員)

国立大の運営費交付金や私立大の私学助成があまりにも削られてきたために、将来、助成額が増えたとしても、それを咀嚼できる体力が大学に残っているかを懸念。学振の概算要求の内容が実現するよう、ぜひ頑張ってもらいたい。

3. 第4期中期目標・中期計画に基づく主な事業の進捗状況(資料3-1, 3-2)

国際統括本部長より「国際的な取組のあり方」について、人材育成事業部長(兼)研究事業部長より「若手研究者支援の進捗状況」について説明があった。

(評議員)

研究拠点形成事業について、将来に成果を残していくことが重要だと考えるが、5年という時限で何かを根付かせるのは難しい。支援期間後もこの事業の成果が根付くように、初めから目配りが必要。また、「国際戦略」として組織の改革に言及しているが、取り組むべき課題や方向性についてどのように考えているのか。(事務局)

研究拠点形成事業をきっかけに、他の事業等も活用しつつ、その成果を充実させていくような流れを作っていけないか考えているところ。

組織については、国際的な取組の司令塔として、事業の枠を超えて学振全体を俯瞰する国際統括本部を今年度から設置した。第4期中期目標・中期計画の柱として掲げられている「世界レベルの多様な知の創造」、「知の開拓に挑戦する次世代の研究者の養成」、「大学等の強みを生かした教育研究機能の強化」には、国内事業と国際事業の両方が含まれており、国内事業であっても国際的な視野を持って運営していくことを目指している。具体的な組織の検討には少し時間がかかるが、最終的なゴールは中期目標・中期計画に即した形で各事業を進められるような組織を目指したい。

(評議員)

海外研究連絡センターの改善・強化とあるが、課題をどのように考えているのか。

(事務局)

学振本部では、海外研究連絡センターのあり方についての検討会議を設け、部署横断的に議論しているところ。予算の制約がある中、どのようにすれば、それぞれの海外研究連絡センターの特色を効果的に活かせるのかという視点を持ちつつ、学振の国際戦略の中での役割を考えていきたい。

(評議員)

検討会議では、学振本部でアセスメントを行っているのか、あるいは、海外研究連絡センターの現場の声に沿った形で、本部としての対応を議論しているのか。

(事務局)

両方のアプローチを行っている。研究者であるセンター長や、事務担当者としての副センター長、国内の大学から派遣された者など、海外研究連絡センターは様々な立場のスタッフで組織されているので、幅広い意見を聞いていきたい。

(評議員)

「科研費若手支援プラン(CIO)」では、若手研究者のロールモデルとなる中堅層やシニアの研究者への支援も含め、科研費を改革・強化するとのことだが、この視点は非常に重要である。昨今は、若手研究者の支援だけが注目され、中堅層やシニアへの支援が手薄になり、結果として彼らが担っている教育、つまり若手研究者や大学院生に対する教育・指導が疎かになる傾向が見られてきた。将来を担う世代が育つためにも、中堅層やシニアへの支援も含めたバランスの取れた施策を進めてほしい。

(事務局)

学振としては、文部科学省の審議会の提言に沿って業務を進めているところだが、ご指摘の点を再認識し、文部科学省とも共有しつつ、的確な事業運営ができるように努めたい。

(評議員)

博士課程進学者の減少が問題となっているが、そもそも、アカデミアの研究職のポスト自体が減少している。そのような中で、企業との関係についてはどのように考えているのか。

(事務局)

特別研究員事業で支援を受けた人が、アカデミア以外のセクターで活躍することがあってもよい。アカデミアに限らず、研究者を志す人には支援をしていきたい。

(事務局)

学振では、文部科学省の施策の一環として、「博士課程教育リーディングプログラム」や「卓越大学院プログラム」、「卓越研究員事業」のように、博士号取得者の力量を社会や企業に示すことで、従来の博士号取得者に対するイメージを変えていくことを目指した事業を行っている。一方で、どのセクターに進むにしても、研究者として第一線で活躍するための最初のステップとして、ポスドクの段階で、自由な研究に取り組む環境が確保されなければ、挑戦的な研究に取り組むことへのハードルが高くなる。そうした層へのケアも学振の役割であると考えている。

(評議員)

例えば、ドイツのハイデルベルクで行われている、著名な賞の受賞者と若手研究者との交流プログラムでは、優れた若手研究者はアカデミアだけでなく、産業界からも、非常に望まれる人材だということが実感できる。学振もそのようなプログラムを視察してはどうか。

(事務局)

海外研究連絡センターとも協力しつつ、勉強していきたい。

(評議員)

現状の教育や研究に対する予算の仕組みが続く限り、テニユアの総数は減少せざるを得ず、テニユアだけを出口と考えると、学振にとっても、研究者にとっても、辛い構図になる。それよりも、博士号取得者には広

い出口があるというメッセージを発信できるような制度的枠組みがあるとよい。それが、博士課程進学者の減少という問題へアプローチとなるのではないか。

(評議員)

博士号の取得率と労働生産性が比例するとも言われているが、それは、博士号取得者が産業界でも活躍するようになるからであり、国全体がそのような方向を考えていくべきである。学振としては、企業とのオープンイノベーションを行っている研究を支援するなど、産業界を巻き込むという視点を取り入れることも必要であろう。

(評議員)

「若手研究者をめぐる課題認識」について、若手やアカデミアを対象を絞って問題を捉えることは妥当なのか、ポストクの時期は身分保証だけでなくスクリーニングされることも必要なのではないかなど、幅広い視点から考察しなければ、社会に対してミスリーディングなメッセージを発してしまうので、よく検討してほしい。

「国際競争力強化研究員事業」について、ポストク段階での海外での研究支援というのは非常に重要な発想だが、プランニングや派遣先について柔軟性を持たせなければ、使いにくい仕組みになりかねない。

また、特別研究員事業への支出予算が年々減少しているようだが、今後どのように考えているのか。

(事務局)

特別研究員事業の予算については、申請件数が増えている中で、できる限り定員増を図りたいと考えている。

(役員)

今回の評議員会の資料は、大学でのアカデミアの将来を担う人材に対する危機感が強く反映されたものになっているが、産業界等も視野に入れるべきという評議員のご指摘はそのとおりで、幅広い視点から見たときの問題点について、学振としてどこまで何ができるかは考えていかなければいけない。

(評議員)

海外で研究を行った後、日本に帰国して成果を還元するだけでなく、そのまま世界的に活躍することにも大きな意味がある。

(評議員)

学振の事業では、今後の活躍が期待される人材が育ちつつあり、また、博士後期課程に進学する学生が減少する中で、人材育成のための事業も進められている。学振には、公的なファンディング・エージェンシーとして何ができるかという視点からヴィジョンを立て、大学院教育からどのような形で社会に有為な人材を育てるかという課題に取り組まれることを期待している。

(事務局)

現状の制度では優秀な研究者すべてには、自分の研究に専念できる環境を提供できていないという認識があり、仕組みに柔軟性を持たせつつも、本当に優秀な研究者には更に手厚い支援をしていくべきではないかという問題意識もある。

(評議員)

学術情報分析センターについて、どのような活動・分析をしているのか。学振の業務の重要な点は、基礎的な研究支援にあると考えるが、科研費等の支援を受けた研究が、5年後、10年後、20年後にどのように優れた成果を出したのかを定量的に分析できたなら、日本の学術政策にとって非常に重要な情報になる。また、学振の持っている膨大なデータは、日本学術会議での議論とマッチングする可能性もある。

(事務局)

学振の様々な事業の間で、横断的に情報の利活用ができる仕組みを作った上での分析や、一人の研究者が重層的な支援を受けながら、どのように成長していったかという時系列的な分析をしていきたい。更に、学振の持つ膨大なデータについてAI等を用いて分析し、事業の方向性や動向を知るための手法の開発も検討している。分析を担う人材の確保など、難しい面もあるが、学振以外の機関との連携も進めることができればよい。